

〔節用集大全器財〕雷盆すりばち 鉢すり粉コ 〔同七器財〕雷盆すりばち 名名 雷鉢すり 研盆同

〔和漢三才圖會三十一〕播盆庖厨具俗云須利波知

按播雷音研物也其響略似雷轟聲故從雷乎其播盆出於備前者良其他者土柔而筋理易潰也

〔物類稱呼器用〕摺鉢すりばち 江戸にてすりばち大坂にてすりこばち山陽道及四國にてか

つ西國にてすりこのばち共いふ東國の女言にえらむと云上總及出羽にていせばち奥州にて

らいばん播盆 同三戸にてかはらけばちといふ

〔沙石集五下〕行基菩薩之歌事

彼御誕生ノ所ニ昔ヨリ講行テント行テ和讃ヲ作り誦シ侍ケル初ノ詞ニ藥師御前御誕生心太

キニゾ似タリケルスリコ鉢ニサシ入テ椀ノ本ニゾ置テケルト侍ル

〔廻國雜記〕すりこばち坂といへる所にて又俳諧歌をよみて人に見せ侍りける

ひだるさに宿いそぐと思ふらんみちより名のるすりこばち坂

〔好色一代女六〕暗女晝化物 是はかしらからえちけて奈良帯も氣がつかます客はなし喰ねばひだるしと摺鉢あたり見渡

して今の薙食るなお腹に中毒ります略○下

〔本朝櫻陰比事三〕聾も爰は聞所

五條の橋にてかしらに摺鉢を被がせ兩の手に火吹竹えやくしを持せ下女にまぎれなき形を

いたさせ略○下

〔胸算用一〕問屋の寛濶女

それくに子といふ物に身代相應の費さし當つて目には見えねど年中に積りて掃溜の中へ

廢り行破魔弓手鞠の糸屑此外雜の摺鉢われて略○下